

里山里海探究発表会

2月9日（火）、2年生普通科による「里山里海探究」の最終発表会が行われました。この取組は県の「ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業」の指定を受けて行われたもので、生徒たちは8月から能登について探究活動に取り組んできました。今日の最終発表会では22Hから25Hまでの4クラスから予選を勝ち抜いた各2組、計8組が出場し、「里山里海の恵みを活かした新しい仕事」の提案を行いました。審査員は国連大学の先生をはじめ、市町の担当者、地域の方々など14名の方に務めていただきました。

仕事の内容は肌にやさしい塩石鹼の開発やITを使った能登野菜づくりなど高校生の視点で考えられたもの。審査の結果優勝したのは、廃校を寮として利用する漁師育成計画、2位は能登の四季を織り込んだ農業や漁業等の体験ツアー、3位は空き家を別荘としてシェアする事業でした。データや取材に基づいた実現可能性のあるプランにふるさとへの愛情がたっぷりと感じられ、審査員も聴衆の生徒たちも感心する内容でした。最後は21H 文系フロンティアコースの生徒がイギリスで発表した能登のピーアールを英語で披露しました。



【生徒の感想】

○里山里海の恵みを活かしたプランを、それぞれのクラスがオリジナル性のあるものに仕上げていたのが、発表を聞いていて改めて能登の魅力を見直すきっかけになったように思います。

○一つ一つの説明が分かりやすく今まで知らなかったことがたくさんあった。自分ももっと地域の良さに目を向け、どのような活動が能登の魅力を他県へ伝えることができるのかこれからもその伝統を保っていくことができるのかを考えていきたいと思いました。

○能登の産業を英語で発表していてすごく新鮮でした！能登の伝統を海外にも発信しようとしていて良かったです。